

## Press Release

2021年7月30日

藤井寺市

---

### ～大阪藤井寺モデルのスマートシティ～ スマートグラス活用による農家と飲食店の新たなマッチング

---

#### 報道関係者各位

藤井寺市(市長：岡田 一樹、以下 藤井寺市)は、凸版印刷株式会社(代表取締役社長：麿秀晴、以下凸版印刷)と連携して、表題の実証実験に取り組むこととなりました。なお、本取組は、大阪スマートシティパートナーズフォーラム<sup>※</sup>の第1期プロジェクトの「インバウンド・観光の再生」分野の取組みとして実施しています。

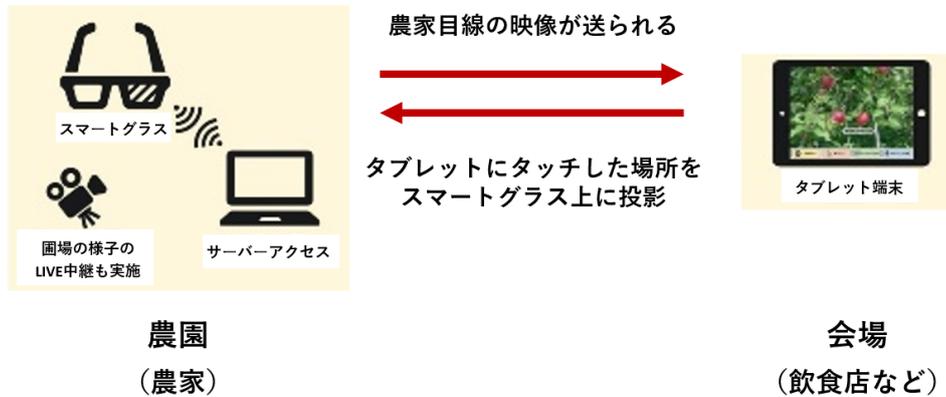
大阪府・南河内農と緑の総合事務所・(一社)ハレマチフジイデラの協力のもと、凸版印刷(株)が有するバーチャル技術により、スマートグラスを活用した農家と飲食店の新たな形式でのマッチング会を7月28日(水)に行いました。

今後、複数回マッチング会を行い、藤井寺市内の飲食店・ものづくり作家と、市域外の農家とのつながりを創出します。生産過程でフードロスになってしまうような農作物なども、(一社)ハレマチフジイデラの参加店舗において、加工・デザインを行うことで付加価値をつけて提供するといった「加工場 フジイデラ」としてのブランディングを目指します。

※大阪スマートシティパートナーズフォーラムとは、“大阪モデル”のスマートシティ実現のため、大阪府、企業、府内市町村、大学などにより令和2年8月設立した公民共同のコンソーシアム

## ○本取り組みについて

### バーチャルでのマッチング会



スマートグラスを活用して、市域外の農家と市内の（一社）ハレマチフジイデラに参画している飲食店やものづくり作家をバーチャルでマッチングします。農家はスマートグラスを着用し、農園にいながら、「どういった場所で、どういったこだわりを持って農作物を育てているか」、魅力を伝えます。スマートグラスに内蔵されているカメラを通じて、農家の視界が遠方の会場のタブレット端末に映し出されます。

会場でマッチング会に参加している飲食店やものづくり作家は、タブレットの画面に映る映像を見ながら、ポインターで画面をタッチします。すると、農家が着用しているスマートグラスに内蔵されているディスプレイに光点が表示され、参加店舗が見たいポイントへと農家の方を誘導することができます。実際に農園を見ながら、こだわりを農家から直接聞くことで、加工する際にも熱が入り、創造意欲が掻き立てられるとともに、観光客などへ商品を提供する際のトークやPRにも活用することができます。また、両者が直接対話することで、より深い関係性を気づくことができ、愛情をもって生産・加工を行うことができます。



▲7月28日実施のマッチング会の様子



▲タブレットにタッチした場所がスマートグラスに埋め込まれたディスプレイ上で光ります

## マッチング会参加者のコメント

### ・(一社) ハレマチフジイデラ (小笹さん)

市内の各店舗では食材にこだわって料理したり、商品として提供したいと思っていらっしゃいます。ただ、仕入れをする際に農家さんから直接こだわりを聞く機会は少ないです。こういった取り組みによって、食材をどのように育てているのか等、知らなかった知識も得ることができ、農家さんを身近に感じることができました。また、近隣では欲しい時期に欲しい農作物が手に入らないこともあるし、そもそも生産していないこともあります。こういったバーチャルのマッチングによって市域外の農家さんとも直接つながる機会があるのは非常に嬉しいし、農家さんから直接紹介してもらえることで商品へのアイデアも膨らむと思います。

### ・農家のコメント (太子町ぶどう農家の『ロマンティック農園』 長(おさ)さん)

このような遠隔でも飲食店さんとつながり、コミュニケーションを取れる機会ができて嬉しいです。実際に店でどのような料理に農作物を使用し、どのような物を求めているのか知るができ、どんなぶどうを作るといいのか考えるヒントにもなります。例えば、ぶどうでも実がぎっしり詰まっている方がいいのか、それとも実と実の間隙があるがジューシーな方がいいのかなど、飲食店さんの意見を聞きながら製法を変えていくことができるというのが良いですね。

今回のようにバーチャルでマッチング会をすることで、農園にいながら細かな育て方のこだわりを紹介できますし、遠方の方や店舗を運営されていて忙しい方ともつながることができるというのは今までになかった取り組みだと思います。また、農家としても飲食店側のこだわりを聞くことができるのでより愛情をもって農作物を育てることができると思います。

## ○実証実験に取り組む背景

“大阪モデル”のスマートシティ実現のため、大阪府、企業、府内市町村、大学などが設立した「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」では、「インバウンド・観光の再生」「スマートヘルスシティ」など7分野で市町村が抱える地域・社会課題解決に向けた取り組みを進めています。

凸版印刷は其中で「インバウンド・観光の再生」のプロジェクトコーディネーターを務めており、この度、凸版印刷と藤井寺市とが連携して新たな観光資源の創出と地域経済循環について取り組むことになりました。

参考：「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」

<https://smartcity-partners.osaka/>

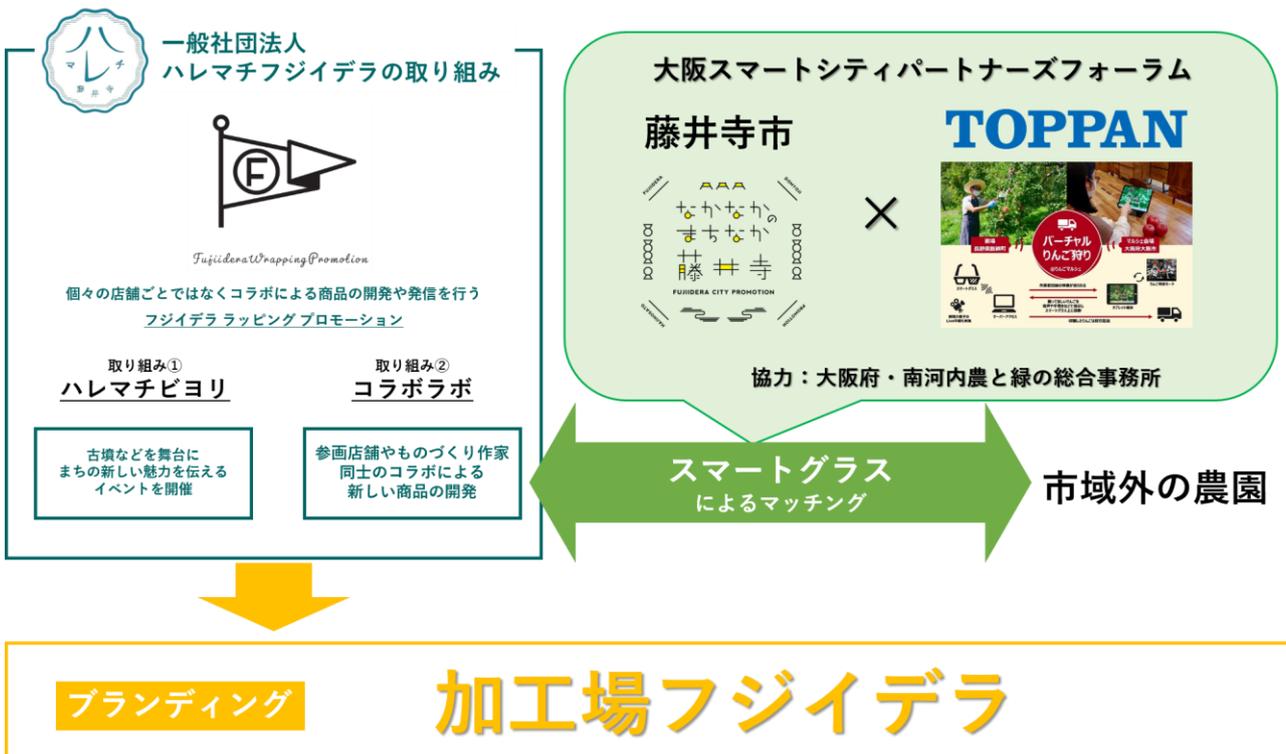
藤井寺市にはハイセンスな飲食店が多く、特に20~40代女性にとっては、それを目当てに来訪される方が多くいらっしゃいます。また、伝統的な老舗・個性的なアイデアにあふれたお店・柔軟な発想でものづくりを行う作家が一つになって(一社)ハレマチフジイデラとして活動しています。お互いにアイデアを共有してコラボ商品の開発をしたり、一緒にイベントを開催したりと、古くからの歴史ある文化と、新たに育ってきた新しい感性とのミックスを生み出す仕掛けを作っています。

こういった取り組みによって、第1次産業が盛んではないものの、食材や材料に加工やデザインを施し、付加価値をつけるといったものづくりに長けた人材が集まっています。

そこで、新たな取り組みとして、凸版印刷・大阪府・南河内農と緑の総合事務所との連携により、市域外のこだわりをもった農家と藤井寺市内の飲食店やものづくり作家を全く新しい手法を用いてマッチングします。

生産途中で商品にならなかった農作物などを藤井寺市内の飲食店などが加工・デザインし、付加価値をつけて提供することを目指します。

フードロス削減やSDGs(9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 12. つくる責任 つかう責任 17. パートナリシップで目標を達成しよう)を意識しながら、藤井寺市で新たな付加価値を創出するという「加工場 フジイデラ」としてのブランディングを行うことで、新たな食文化・観光資源の創出を目指しています。



▲本取り組みのイメージ図



## ○今後の展開について

今年8月下旬に第2回マッチング会を実施予定です。また、10～11月頃には、藤井寺市の古墳やまちの歴史を学べる施設である「アイセル シュラ ホール」にて、(一社)ハレマチフジイデラとの連携によるマルシェイベントを開催する予定です。イベントでは、一般来場者に対して農家とのマッチングにより仕入れた食材を使った特別メニューを提供するとともに、スマートグラスを活用し遠隔でのバーチャル農作物狩りを行う予定です。特別メニューの食材をどういったこだわりを持って農家が育てているかなどを一般来場者がタブレットを通じて農家から直接聞いて、つながることができるイベントです。

### 【将来的な展開】

本取り組みによる実証後、「藤井寺モデル」として確立し、全国への波及展開が期待できます。

市内の飲食店同士のコラボの機会創出や市内外の農園とつながり、新たな商品を作り上げる仕組みなど、小地域・中地域の活性化モデルを構築していきます。

## ○凸版印刷株式会社の技術について（凸版印刷担当者のコメント）

現在、凸版印刷ではスマートグラスを活用したバーチャル農作物狩り体験の技術を開発しています。遠隔地にいながらバーチャルでのコミュニケーションを通して農産物収穫体験をすることが可能になります。まだ試作段階ですがサービス化を目指して、開発を進めています。

これからもIoT技術を活用し、これからの時代に対応した観光の新しいスタイルを、パートナー企業や地元の事業者と一緒に作り提供していきます。同時に、観光の新しいスタイルを実現するためのサービスプラットフォームの運営に関わり、地元が活性化するためのお手伝いをしていきたいです。

このように、バーチャルとリアルが融合したプラットフォームを構築することで、大阪の「未来のスマートシティづくり」に貢献していきたいと考えています。

## ○藤井寺市長 岡田一樹 コメント

藤井寺市では、令和2年に企業パートナーシップデスクを立ち上げ、多様化する社会課題に対し、企業や大学と公民連携で取り組んでおります。本市は大阪市のベッドタウンとしても知られており、全国でも5番目に小さい市域という特色を活かして、様々な実証実験を行い、「藤井寺モデル」として全国に波及させていくことで、持続可能な社会やスマートシティの実現に取り組んでまいりたいと考えております。令和元年に本市と羽曳野市にまたがる古市古墳群が百舌鳥古墳群とともに大阪初の世界文化遺産に登録されたこともあり、日本全国、あるいは世界へと発信していけるような市を目指しております。本取り組みでは、凸版印刷株式会社様・(一社)ハレマチフジイデラ様・大阪府・南河内農と緑の総合事務所と連携し、大阪スマートシティパートナーズフォーラムの一員としてインバウンド・観光分野における新しいモデルの構築ができることを大変嬉しく感じています。今後、大阪府下を中心とする他市町村にも本モデルが波及していくことを期待しております。



## ○藤井寺市概要

藤井寺市は市域 8.89 平方キロメートルと大阪府内で最小、全国でも 5 番目に小さい市ながら、大阪中心部へ準急電車で 15 分とアクセスが良く、ベッドタウンとしても知られている。そんなコンパクトなまちの中に、今回世界文化遺産登録された、古市古墳群に属する大小の古墳と、国宝を有する葛井寺や道明寺、菅原道真公にゆかりの道明寺天満宮など豊かな歴史的な地域資源が溢れている。また、市内の「土師ノ里駅」周辺は古墳を作った技術者集団「土師氏」の本拠地であり、津堂城山古墳や古室山古墳など敷地内に入れる古墳や「改札を抜ければ世界遺産！」と言わんばかりの駅前の鍋塚古墳、高架下の赤面山古墳など、まちなかに多種多様な古墳がある。

一方で、(一社)ハレマチフジイデラによる、古くから藤井寺で店を営む老舗と、独特の個性で若者から人気を集める店舗や作家が手を取り合い、藤井寺市の新しい魅力を作り出す取り組み「FRAP (エフ・ラップ)」など、若い女性層をターゲットとした独自のまちづくりに取り組んでいる。参画店舗では古墳をモチーフにしたフードやグッズも取り扱っており、古墳好きにも大注目のスポットとなっている。

また、コロナ禍のマイクロツーリズムとしての新たな取り組み「観光難易度 A 級シティフジイデラ」が注目を集めている。

観光難易度 A 級シティフジイデラ

<https://fujiiidera-city-promotion.osaka.jp/nannido-a-kyu-city/>



藤井寺市シティプロモーションサイト「なかなかのまちなか藤井寺」

<http://fujiiidera-city-promotion.osaka.jp/>



(一社)ハレマチフジイデラによる取り組み「FRAP (エフラップ)」

<https://frap-fujiiidera.com/>



最近では、社会課題・地域課題に対する新たなアプローチを目的として、公民連携に力をいれており、

令和2年より公民連携のワンストップ窓口として「企業パートナーシップデスク」を設置し、取り組みを進めている。



<https://www.city.fujiidera.lg.jp/soshiki/seisakukikaku/seisakusuishin/partnershipdesk/11255.html>

#### <市概要>

市町村名：藤井寺市

市長：岡田 一樹（おかだ かずき）

人口：63,895人（29,642世帯）※令和3年6月末時点

市域：8.89 km<sup>2</sup>

#### ○凸版印刷株式会社概要

# TOPPAN

#### <会社概要>

社名：凸版印刷株式会社

代表者：代表取締役社長 磨秀晴

所在地：（本社事務所）東京都文京区水道 1-3-3

創業：明治33年（1900年）

事業内容：トッパンは、「印刷テクノロジー」をベースに「情報コミュニケーション事業分野」、「生活・産業事業分野」および「エレクトロニクス事業分野」の3分野にわたり幅広い事業活動を展開しております。

#### <本件に関するお問い合わせ>

藤井寺市市民生活部観光課 兼 政策企画部企業パートナーシップデスク

担当者：増田 佑介

TEL：072-939-1086 E-mail：[kankou@city.fujiidera.lg.jp](mailto:kankou@city.fujiidera.lg.jp)